

転職の時代とFIRE

1. FIREと収入源

最近、FIRE (Financial Independence, Retire Early: 経済的自立と早期退職) が、若い人の関心事の一つになっています。サラリーマンの方が中堅になる頃が転換点になりやすく、大手企業では早くも30才が大きな壁になり、将来を見通して早期退職を考えるようになります。しかし、早期退職しても経済的安定と「遣り甲斐」とのバランスの問題が残ります。従来からFP (Financial Planner) という資格があり、人生設計に基づいて、長期の収支計画を立て資産設計・資金計画を立てると言われています。人生設計 (就職・結婚・出産・マイホーム購入・退職などイベント) を「金の流れ」で分析するので、資金計画から金融、税制、保険、ローンなどの幅広い知識とスキルが必要で生命保険の営業員が行なうケースが多くみられます。

ポートフォリオと言いますが、ローリスク・ローリターンの安定した国債などの金融商品、ハイリスク・ハイリターンの投資型金融商品、長期的に安定し換金可能な資産などに3分割を選択するケースが多いのです。いずれにしても若い人はゼロから形成するので至難の技です。NHKのクローズアップ現代で紹介されていたケースでは、株式投資で6000万円の資金を回して収益を得ている方が紹介されていましたが、質素な食生活を垣間見る事ができました。確かに、何かを得ようとするれば「犠牲」にする事が重要です。10%の利益を確保できれば年収は600万円ですが、その内、幾ら投資に回すかにより手取り額が変わります。また、株式投資は経済動向が大きく影響するので、自分でコントロールできない事態も想定しておく事が必須になります。

一方、いわゆる資格ビジネス、例えば、中小企業診断士の資格を取って経営コンサルタントを目指して独立開業するケースでは、初期に安定した顧客がいるか否かが分岐点になります。顧客がいれば、仕事から達成感を得て、多少なりとも収入を得る事ができるので、初期資本 (退職金など) を食いつぶしながらビジネス展開が可能になりますが、スポット契約が出来ても長期契約が難しいのです。長期契約には「縁」という要素が大きく絡むので確率的に希少です。

2. フリーランスと「幸せ」

FIREと分類される起業はフリーランスの形態が必然的に多くなりますが、自由なだけに返って自由な時間がないという逆説的な状況です。仮に「株式投資」を行なうとすると油断すると急激な変化に遅れて大損のリスクがあるので、情報端末に縛られている状況とも言えます。このような状況下では真の意味で「幸せ」を追求していると言えるだろうかと疑問に思います。何故なら、通常の家生活で幸せを望むなら、多くの時間を家族の為に割く必要があるからです。収入面に絞れば、それなりに稼ぐ事が出来ても仕事が不安定なので不測の事態に備えた蓄えが必要になるので可処分所得が少なくなります。

一方、サラリーマンは収入が安定して、社保が充実しているので医療面や年金面が蓄えられている、さらに、有給休暇なども積極的に取得する時代、そして、週休2日が定着しているというメリットがあります。さらに、会社が倒産しても失業保険があり、当面の収入は確保できるのです。従って、収入に応じた生活が可能ならば、フリーランスよりも恵まれていて一般に言う「幸せ」を求めやすくなっています。

しかし、サラリーマンでも片親では収入不足になり易いので夫婦共稼ぎが多くなり、核家族なので子供視点の「幸せ」を犠牲にする事になります。早朝から保育所、夕方学童保育や塾などに通うなど親と離れた生活を子供に強いるのです。集団活動に馴染むというメリットはあるでしょうが、反面、女性＝「子供」という時代ではないが、幼少期から母親の温かさが不足するケースが多くなっているのです。「三つ子の魂百まで」と言いますが、幼少期の精神的安定が不足するので情緒不安定な子供になって、そのまま成人すると人間性が欠如した状態で、ちょっとした事で異常な行動に出るケースが多くなっています。

3. 「自由」と「幸せ」が両立するか

NHKクローズアップ現代で「私たちはなぜ働くのか 投資&倹約で生きるFIRE生活」(4月12日)を取り上げ、極限まで倹約して投資に回す人や仕事に希望を見いだせずFIREを目指す人を例に挙げて、一方でFIRE実現後に再び仕事に戻る動きもあると締めくくっていました。今より良くなりたいという願いは万人に共通しますが、例えば、ダイエットでも食事制限や運動などの難関をクリアしないと成功が覚束ないように「幸せ」も何かの犠牲の上に成り立つものと言えます。FIREというケースでも自分で稼ぐ「術」を取得するまで並大抵ではないではないのです。

極端な例ですが、私の周辺で営業の方がフリーランスになり、同じ業務でお客様に接して独立起業するケースがありました。そのお客様へのサービスを元の会社に委託するなら会社・自分・お客様の三方善しですが、この方の場合、他の会社に委託したので元の会社からは背信行為という汚名を被ることになりました。「幸せ」を獲得できても「裏切者」のレッテルがついたままなのです。このように、異分野でフリーランスになり「自由」と「幸せ」の両方を獲得するのは至難の業でNHKの締めくくりにあったように再度サラリーマンに戻るケースが大多数です。

しかし、再就職の条件は、殆どの場合、以前よりも悪くなっているのです。何故なら、金銭的蓄えが無くなるまでフリーランスで頑張るので借金生活に陥ってから再就職をするので「妥協」してしまうのです。しかも、多くの場合、即戦力と期待されるので、配属された部署で周囲との摩擦があるのでストレスが高いと言えます。ある方は「期待されない」と心に誓って、謙虚にゼロからスタートされて、時間経過で周囲が認める存在になったと言われていますが、このケースも稀有で殆どは再就職となり職を転々とする状態になっています。

4. リスキルリングの時代

「この会社は〇〇がダメだから」という理由で転職する方が多いですが、確かに、ミスマッチという事も考えられますが、逆に見れば、「何故、自分で改善できなかったの」と疑問が浮かびます。〇〇と分かっているのに改善できないのは「能力」よりも「責任感」が欠けるのではないかとか、そもそも批判するだけの人ではないかと疑いたくなります。また、批判する方は前職の欠陥を滔々と語る傾向があり、自分の欠如に気が付いていないのです。

世の中の進歩が速くなっていて、長い現役生活では経験が陳腐化するケースがあります。卑近な例では、プログラマーでもCOBOLなどの事務用言語で育った方が、オープン系言語の時代に適応できなくなっているのです。オープン言語でもチャットGPTのようなAIが要件を与えると要件に応じたサンプルを提示する時代になっています。AIがソースを創る時代なのでプログラマーという職種も状況に適合して行くことが大きな課題になっています。

政府がリスキルリングと発信して新しい技術などの取得を推奨していますが、職場の現実と乖離した新技術だと使うチャンスがなく、自ずから転職へ動くという流れになります。つまり、再就職を進める訳ですが、仮に40才で新技術を身に付けたとしても実際に試行錯誤してDo-Howを身に付けるまでには結構な時間が必要になるので新しい職場で苦勞する事が待っているのです。特に、中間管理者として期待されると新技術のKnow-Howだけでは部下は動かないので一緒に仕事をしてDo-Howを体験する事になります。対人的な事が上手でないと一緒に行かないながら管理者としての役目を果たすのはストレスが強い状況になります。テレビでヘッドハンティングのCMを見るようになったが、新しい職場で活躍する努力よりも今のまま職場を改革する方が精神的なストレスは少ないと思うのです。FIREと表記するとカッコよく響きますが、NHKの言うように再就職に戻るケースが圧倒的に多いので自由と幸せの両立が難しい事が結論と考えます。前述のように、ゼロからスタートと覚悟して、時間の経過で周囲が認めるのを待つ位なら、今の職場で改善した方が良いと思います。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】